



同窓会報



北陵

会報 第26号

●発行所●
栃木県立真岡北陵
高等学校同窓会
●編集●
同上編集委員会
●印刷所●
こだま印刷

今日あるを感謝することこそ愛の道



同窓会長

菊地恒三郎

昨年の七夕祭りのこと、ある障害児施設で、子供たちはそれぞれの願い事を書いたそうです。母親と一緒に書いていた子供が、「お母さんは何て書くの」と聞いたとき、母親は「あなたより一日でも長く生きたいの」と言ったそうです。そして、その子供は「私は、お母さんよりも一日でも早く死にたい」と答えたそうです。

私はこの話を聞いたとき、悲しさと感動で胸がいっぱいになりました。子供を思う母親の底知れぬ深い愛情と、母親を思う子供の無限の信頼と愛。

学校の勢い



学校長

石川 勲

一 本校に着任して山口前校長の後任として昨年四月に歴史と伝統に輝く本校に着任しました石川です。宜しくお願い致します。

同窓生各位におかれましては、日頃より本校教育に對しまして深いご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。さて、本校には「今日あるを感謝し、最善をつくす」という素晴らしい校訓があります。私は一学期の始業式で、この校訓にある「最善を

えを生み、家庭における親と子の関係、学校における教師と生徒の関係、社会における大人と子供の関係」といった人間と人間の関係を目に見る形で崩壊させてきました。

現在、本校の生徒諸君は、この校訓を実践するべく、日々の学業や部活動等において精進を重ねており、実際に「北陵の生徒は、礼儀正しく、挨拶ができる」と言われているのをよく耳にします。同窓生としてはこのうえない喜びであり、満足感を味わう瞬間でもありません。

同窓会は、今後ともこの素晴らしい学校の発展と生徒諸君の健全な成長のために協力援助していかねばならないと考えています。

くじける事なく、克服できる精神力を身につける。・誘惑に負けない強い心をもち、社会のルールや校則を守る。・病氣などに罹らない健康で丈夫な体をつくる。三、思いやりのある北陵高生であるように相手の立場に立つて物事を考え、相手の痛み、つらさ、悲しみなどが分かる、行動できる思いやり、心をもつ。(紙面の都合で一部省略)

以上を常に頭において、自分を磨き高めるよう要望しました。二 学校の勢い 本校に赴任して最初に感じたことは、校庭や体育館そして格技場等部活動に励む生徒が大変多いことです。本校は、「感謝の心」を育て持つ、歴史と伝統のある学校であり、その感謝する心こそが、愛の発露であると考えます。

未来の同窓会青年部



青年部長

鶴見英樹

同窓会本役員の先輩方、事務局の先生方、又同窓生の皆様方には、日頃より、暖かいご指導、ご支援を頂きまして、厚くお礼申し上げます。

今年度の青年部活動では、役員会(親睦会)をはじめ、研修旅行では、福島県で開催された「未来博」へ行き、学校祭では、雨が降る寒中、青年部役員一人一人が、青年部特製「焼きそば」を焼き、六百食を完売させることができました。又、残念なこともありましたが、それは、毎年恒例で夏に行われます、「いかだ下り」が台風の影響で、中止になってしまったことです。来年度は是非今年度製作したいかだで出場したいと考えています。

ところで、私も、青年部に入り、今年度で四年目になりました。そろそろ、新しい役員を、後輩に引き継いでもらいたいと考えております。と言いますのも、現在の青年部役員を見てみましても、皆一人一人が若い気持ちを持っていて、本当の「若さ」が出ないので、盛り上がり欠けてしまっているからです。そんなこともありまして、これからの青年部には若さ溢れる会務をして頂きたいと思っております。

今後ともご支援ご協力、ご指導の程お願い申し上げます。本当に有り難うございました。

叙勲おめでとう

叙勲の栄に浴して

人生幾山河



昭和十七年度卒業
佐藤 忠雄

平成十三年四月二十九日、地方自治功労として勲五等瑞宝章の叙勲の栄に浴し、県知事より勲記勲章の伝達を受け、五月九日宮中の参内春秋の間で天皇陛下に拝謁を受け、光栄の極みでありました。

受章は私が永く地域公共のため尽力した功績によるものと思われまふ。私は幼少の頃、二宮尊徳先生を本手として農事や家事の手伝いをしながら将来は村一番の篤農家めざして学びました。きびしかった戦時中、

十六才で益子町議会議員に当選、通算七期二十八年度まで務めました。議員二期目と七井中PTA会長の時、幼児教育の重要性を痛感し、益子町第一号の栃木県農業士推薦を辞退し、学校法人青葉学園七井幼稚園の創立を決断しました。それは私にとって百八十度の方角転換です。地域の要望は多くても何も知らない学校法人幼稚園の認可申請事務、土地、資金、人事の問題、言うは易く行ふは難し、私は必死の気持でありました。でも協力してくれた友、支えてくれる家族あつて待望の七井幼稚園が開園出来ました。人口少ない七井中心でありましたが熱意が通じて十年足らずで芳賀郡市内でトップクラスの幼稚園に成長させて戴き感謝の涙です。農業を生かした幼

稚園経営、更に地域の土地改良事業広域農道の開通推進、大変な時期の政治活動、健康には自信のあつた私の体も人生七十、過労で自治医大に入院し手術することになりました。明日の命はどうなるか。でも私はプラス志向で天が与えた休養の時間としてきびしい入院生活の中で幼少や青春時代の思い出、地域の出来事、農業振興町政や議会活動幼児教育等体験見聞した事を正直に書き綴りました。再度の入退院後、親しい友人と相談して人生幾山河として出版いたしました。私は常に誠実と努力感謝の心を信条に残された人生を歩んで行きたいと思っています。幾山河共に

苦勞の夫婦仲
叙勲の栄
金婚の年
忠雄

年寄り、誰もが、生き生きと暮らせる地域、さらに、平成十四年四月から始まる完全週五日制に向けての学校と地域との携り方等、まだまだ考えたいかなければならない事が山積みしています。この広い農村を舞台に自然と共生し、いのちを育む職業に携わり、男性の協力を受けるが、共に認め合い、高めていくことのできる社会、一人ひとりが、様々な分野で自分らしく、しなやかに、力強く輝ける時代であつてほしいと願つてやみません。

新農業士誕生

地域農業と仲間達



昭和四十五年度卒業
小堀 誠一

私はこの度、平成十二年度栃木県農業士に認定されました。その間色々な研修会などに参加し、たいへん勉強をさせていただきました。特に先輩農業士さんの農業に対する考え方や、実際の経営などを見るたいへん刺激的であり私自身の考えのあまさをしみじみ実感した一年でもありました。

私は、昭和四十五年度に真岡農業高校を卒業し、そのまま就農しました。その当時、私が高校入学時には就農率は八割、卒業時には五割という時代でした。大きな工業団地の造成がどんどん進み、同級生の多くが就職するようになり、徐々に就農率が下がっていき、就農者が減っていき、

職業に違いはあつても、同年代の青年の悩みは似たようなもので、毎晩のように公民館に集まるとは語り明かしたものです。この経験が今でも役に立つと同時にたくさんの仲間を得ることができました。私の農業経験は、米作りから始まりました。開田ブームの時代です。しかし、すぐに米余りの時代になり、それからというもの、米作り、トマト、キャベツなど、儲かりそ

うなものは何でも作つたという感じです。そして、三十年が過ぎた現在の経営（水稲十水稲育苗）というパターンに落ち着きました。しかし、まだまだ問題はたくさんあります。なかでも水田を維持していくことは一人ではできません。地域の協力なくしてはできないことがたくさんあります。特に、水路を守ることなど、たいへん重要なことです。辛い私は、大勢の先輩や仲間にも恵まれました。これからも地域の仲間とともに、活力ある農業をめざして頑張りたいと思っています。

女共学が定着し女性の視点から会の活性化につなげられる事になれば幸いと存じます。役員は二十の自治会から一名世話人を選んで頂き、その中で相談して決めたいと考えております。



自分らしく生きる

輝くために



昭和四十一年度卒業
鈴木 きみ

平成十三年一月、私を含め新たに十二名の女性農業士が誕生しました。栃木県女性農業士の認定は、平成十年にスタートし、現在三十九名が認定されています。認定者のほとんどの方が主体的に農業経営に参画すると共に、長年組織活動にも取り組まれ、農村女性の社会参画等に関し豊富な知識を有し、リーダーとしての資質を備えた女性農業者です。今年度三月に新しく「とちぎの農業、農村男女共同参画ビジョン」が策定されました。

「農村地域社会の意識改革や女性が活躍しやすい仕組みづくり等に、それぞれの地域で女性組織等と連携しながら、農業農村の真の男女共同参画を実現するための先導的役割を担って行くことが役目です。」

これは、女性一人でも何役もこなさなければならず、自分らしく生きたくても実現できません。男女共同参画社会基本法の中に明記されている「男女協力」の理念をま

支部活動報告

物部支部の活動について



昭和二十年度卒業
星野 義治

北陵高校物部支部は、平成九年四月に下記の様に組織の充実を図りました。

支部長一名 副支部長二名 会計一名 役員（幹事）若干名 を選出し、毎年一回の支部会を開催し、会議終了後は懇親会を行っております。又毎年一名の優良農家の推薦を行っております。本年は去る十二月七日に忘年会をかねて開催し盛会に終わりました。同窓会員相互の親睦と交流情報の交換、昔の農学校時代の懐かしい思い出話や、最近の本校生徒のエアライフル射撃部、農業クラブ等世界大会、全国大会の

優勝は大きな感動であり、この様な輝かしい活躍は同窓生として喜ばしい限りと存じます。また、物部地区の皆様には本校創立九十周年記念事業に当っては特段のご協力を賜りましたこと心より感謝申し上げます。五年後の百周年をめざして同窓会女性部の組織づくりを今後推進したいと思っております。男

会員寄稿

作品に触れて



昭和二十七年卒業
伊沢 誠

五十二年の歴史をもつ芳賀地方芸術祭という行事があります。これは「芳賀郡市内の芸術文化の交流と文化活動への住民参加を促進し、豊かな地域を作ることを目的とする」という方針のもとに運営され、文芸や音楽、ギャラリーなど十三の部門で開催されます。対象は小学校、中学校、高校、一般と児童生徒はもとより、広く一般の住民の方

の参加ということになっています。わたしは以前より部門の中の「詩」部門の審査員として携わってきました。たまたま今年真岡市が詩部門の担当ということになり、審査から表彰まで関係してききましたが、毎年一、〇〇〇編前後の作品は専門委員の先生方や学校の先生方の協力のもと、それぞれ学年ごとにと審査をしました。

審査中わたしは、自分の高校時代の学校生活が思い出され、応募された作品の中に自分を重ねながら、すでに遠くなり霞んで見えるあの頃の実習を怠けて図書館に入り詩集を読んだり、詩作をしていました。何かを好きになったり興味を持ったものに一生懸命取り組むことができたという、学生時代にだけ許されるものがたくさんありますが、一過性の興味でなく自分のものとして長く持てる、そしてそのことで誇れるものを是非作ってほしいと思います。少し説教調になつてゴメン。

(真岡文芸協会会長)

親と子の因縁



昭和二十七年卒業
井野 博

昭和二十四年七月二十五日に中学生の私は父に連れられて、初めて八幡ヶ丘の本校を訪ねました。学校長小林善蔵先生と初対面でした。校舎と畜舎などの案内をうけてから校長室で一緒に昼食をとりました(お互いお弁当) 思えばこれが私と本校の関わりが始まりでした。

就農をしたものです。在学中は幸運にもクラスの総代(二カ年間)、生徒会長と農業クラブ県連盟会長に選ばれて、勉強もする、部活動もやる、友達づくりも豊かにして学友会と称して、生徒会と農業クラブの両組織の頂点に立たされての学校生活は愉快な思い出が沢山あり、今日の私の人格形成にとって本当に有難い教育の場となりました。それから四十数年間は田畑山林を生活の舞台として、ともかく先祖を

優良農家紹介

産地に見える

複合経営へ転換



昭和四十四年度卒業
猪野 忠 秀

今から三十年以上前、学校を卒業すると誰もが働きに出た。農業収入に大きな期待が出来ず、できるだけ外に出て働いて収入を上げたかったのでしょう、遊びたいのもあったでしょう、私もその中の一人でした。当時母はダナーの株令栽培、稲は日本晴、ヨモマサリ、コシヒカリは状態の棒でおこしてコンバインで刈ったりするので、家の飯米用でした。畜産は、



増大、増生産量、産地の維持、この年、女峰十アール五百万円の売上がありまして、その後、当地に単棟ウオーターカーテンが普及し、自分たちの産地に貢献できたのではなからうかと思っております。現在、とちおとめと女峰で六十アール作付していますが、女峰は一月下旬から「体験狩り」を五月上旬まで五年前からやっています。女峰は、今機械化は現実のものとなり、今の機械の性能なら、長男も就農する予定になっておりますので今の倍の面積はやれると確信しています。直販の販路も拡大しつつありますが新食糧法になってから精米した田や賞味期限を表示します。JAに

夢への第一歩



昭和五十三年度卒業
大根田 浩

私は、昭和五十三年度に本校を卒業しまして、卒業当初は、水稲を主体とした経営でしたが、米の自由化になってからは

米の価格が低迷し続けているため、現在では、苺を主体とした経営に変わりました。今は苺三千アール、水稲二ヘクタールを家族三人で経営しています。苺は女峰からとちおとめに二年前から変わり、栽培方法も土耕からロックウール栽培へと一部変えま

我が家の農業



昭和五十二年度卒業
飯島 保

私は、昭和五十三年に真岡農業高校を卒業し、農業短期大学で二年間学んだ後、就職しました。そして、就農と同時に

環境問題や規模拡大に伴い、平成十年よりトマトのロックウール栽培を始めました。ほぼ同時期に養豚業を始め、稲作全般を父から任されるようになり、私の責任が重くなってきました。一口にトマトのロックウール栽培といっても、初めてのトマト栽培で、それも水

海外へ、花・夢・母校

昭和四十九年度卒業

太田 正明

私が入学した、昭和三十八年、八幡ヶ丘で学んだ当時は農業全盛の時代でした。本音を言うと希望の学校ではありませんでした。母が「長男だからのむ」、その一言で入学、あまり乗り気でない中、一年二年と過ぎて、三年の選択科目に、学校で初めて花という科目を作ってもらい、仲間四人、峯峰先生と共に花への夢

地域の人たちと

昭和五十九年度卒業

小玉 貴浩

私は、本校を昭和五十九年度に卒業しました。宇都宮農業高校農業特別専攻科に働きながら週二回通学し、水稲を中心に二年間学び卒業しました。その後、就職しました。当時は、私と両親の三人で行い、葉煙草中心に水稲の複合経営でした。高校卒業と同時に山本青年団、益子町青年クラブ活動などに積極的に参加し、いろいろな地域活動を行ってきました。そこで知り合った妻と平成二年に結婚、二男二女に恵まれました。

現在の経営は、自分と両親の三人で葉煙草、水稲、麦類、大豆、ソバ、水稲の育苗、作業の請負い等の経営をしています。妻は看護婦として町の

れ、一言でOKし、両親に「世界一のオランダで花を学びたい、俺は行きます。」と話し、当時、高卒で一万三千円位の給料の時、オランダ往復運賃は七十二万円の時代でした。農業実習生として一年半、世界一背の高いオランダ人と、世界一国土耕地面積の広い、海を陸にし、自然を大切に、自国の花を世界一にした、すばらしい国民の中で、アイディアを出し、とことん努力することを学びました。帰国後、仲間と共に花栽培、キクを作

って、又再び、オランダ「ヘデス社のスプレーマムと出会い、ずっと栽培し続けています。母校や私の育ての親、オランダへの恩返しに、東南アジア、タイ、マレーシア、ドイツ、フィリピン、ニュージーニア、の研修生を受け入れて、自分の技術を教え、又半面彼らの国のすばらしい文化と出会え、自分も、生き生きとした人生を味わっています。苦しい時は、海外での苦労したことを思い、海外に行つては、家で学んだ研修生と昔の思い出を語



り、明るく農業し、楽しく生活出来るよう夢を話します。なんと言つても、夢と花への道を見つけた母校と母国オランダ、本当にありがたい。今後ますます、若い人達に、夢と希望を与えてくれるよう、おねがいします。

経営者と父親になつて

昭和五十七年度卒業

大足 成男

かつ効率的な花弁園芸農家にしたいと思つております。



元気村体験ツアーと称して都会の人々に沢ガニ取りの体験とトマト、トウモロコシなどの農産物を食べていただいています。地元への若い後継者と共に農協から委託された肥料配達、煙草の運搬などの色々な仕事をすることにより益子町の農業の実体が見え、色々な問題が少しずつ分かってきたような気がします。

最後にこれからも日々努力し農業者として地域の人々の交流に心がけて頑張っていきたいと思つてます。



私は旧真岡農業高校を卒業後、栃木県農業短期大学校へ進み、同校を卒業した後に、農業実習生としてオランダで一年間の農業研修をしました。その後、帰国して父の花弁園芸農家に後継者として就職しました。

オランダで見てきた農業経営とは、非常に組織化された社会的経営であり、何よりもその圧倒的なスケールの大きさに感動しました。そこに魅力を感じ、将来は大規模で

我が家の農業経営

昭和六十三年度卒業

黒崎 芳博

私の家は土地利用型農業の専業経営で米、麦、大豆、そば等の栽培をしています。

家族は、私と会社員の妻、父、母、祖母の五人です。経営面積は二、三〇〇a（自作地五五〇a十借地一、七五〇a）、他に作業受託を延べ面積で三、〇〇〇a、期間借地四〇〇aを父、母、私の三人と年間延べ雇用人数六十名で行っています。



十三年度は、水稲一、五〇〇a、大豆一、〇〇〇a、そば一三〇aを作付しました。ここ数年、米価を始め農産物価額の低迷や天候不順等々で、かなりのダメージを受けています。しかし、稲作経営安

十五年前から農業青色申告を始め三年前からはパソコンによる複式簿記の申告を行っています。

平成13年度の進路状況

(平成14年1月現在)

進学		大学		短大	その他			未定	合計
		国立	私立	私立	別科	専門	訓練	進学	
本年度	男子	0	14	2	2	30	6	3	57
	女子	1	0	11	0	46	0	1	59
	小計	1	14		2	76	6		
昨年度	男子	0	10	4	2	18	5	8	47
	女子	0	3	9	0	15	2	8	37
	小計	0	13		2	33	7		
合計		13	13			42		16	84

就職		就職			公務員	自営	在職	就業	合計
		管内	県内	県外					
本年度	男子	22	10	6	0	0	4	3	45
	女子	17	29	6	0	0	11	6	69
	小計	39	39	12			15	9	114
昨年度	男子	19	18	9	2	0	1	3	52
	女子	23	38	15	0	0	9	11	96
	小計	42	56	24	2	0	10	14	148

うつくしま未来博に参加して

平成五年度卒業

小宅 信子

九月三十日、福島県の須賀川市にある「うつくしま未来博 二〇〇二」に行ってきました。私たちが行った日は、最終日ということもあり、会場では、大勢の人たちで、ごった返していました。

今回のこの研修旅行では、青年部だけでなく、青年部の家族など、沢山の人々にも参加して頂きました。行きのバスの中では、ゲームやクイズ、

カラオケなどをして楽しみました。会場に到着すると、入場ゲートでもかなりの人たちがいて入るのが大変でした。中に入ると、あ

とは自由行動をし、乗り物に乗ったり、農産物や、物産展などを見てまわったり、福島市の町村の歴史や、サザエさん館やウルトラマン館などを一日をかけて見学しました。会場では、車椅子でも入

れるような場所もあり、また環境を考えて段差などもあまりなく、とても歩きやすかったです。うつくしま未来博というだけあって、未来に向けた美しい町づくりに取り組んでいる様子が、よく分かりました。

帰りには、ちよつと寄り道をして「福島空港」へ行きました。偶然にも私たちが空港へ着いた時には、飛行機が離陸する所を見ることが出来ました。まだ飛行機に乗ったことのない人、見たことのない子どもたちには、とても感動したのではないかと思います。

今回のこの研修旅行では、青年部だけでなく、青年部の家族など、沢山の人々にも参加して頂きました。行きのバスの中では、ゲームやクイズ、

カラオケなどをして楽しみました。会場に到着すると、入場ゲートでもかなりの人たちがいて入るのが大変でした。中に入ると、あ

とは自由行動をし、乗り物に乗ったり、農産物や、物産展などを見てまわったり、福島市の町村の歴史や、サザエさん館やウルトラマン館などを一日をかけて見学しました。会場では、車椅子でも入

れるような場所もあり、また環境を考えて段差などもあまりなく、とても歩きやすかったです。うつくしま未来博というだけあって、未来に向けた美しい町づくりに取り組んでいる様子が、よく分かりました。

帰りには、ちよつと寄り道をして「福島空港」へ行きました。偶然にも私たちが空港へ着いた時には、飛行機が離陸する所を見ることが出来ました。まだ飛行機に乗ったことのない人、見たことのない子どもたちには、とても感動したのではないかと思います。

今回のこの研修旅行では、青年部だけでなく、青年部の家族など、沢山の人々にも参加して頂きました。行きのバスの中では、ゲームやクイズ、

カラオケなどをして楽しみました。会場に到着すると、入場ゲートでもかなりの人たちがいて入るのが大変でした。中に入ると、あ

とは自由行動をし、乗り物に乗ったり、農産物や、物産展などを見てまわったり、福島市の町村の歴史や、サザエさん館やウルトラマン館などを一日をかけて見学しました。会場では、車椅子でも入

オーストラリア研修を終えて

二年五組 佐藤 一也

出発までは、不安な気持ちがありました。しかし、オーストラリアの街並みや、大自然の風景を見ることで、期待で

胸がいっぱいになりました。メルボルンでの、市内見学はもちろん、フィリ

ップ島への観光もあり、デニラクインでは、果

樹農家や、米農家を見学しました。オーストラリアの農業は、日本の農業と違い、とても大規模なものでした。米農家の所

では、とても広大な農地を、幅約十メートルもある農機具を使って収穫する光景には驚かされました。

約一週間のホームステイでは、テイラーさん一家のお宅に滞在させていただき、英語の壁に悩まされ、一日がとても長く感じられました。しかし、何日か一緒に過ごしていくうちに、だんだんと聞き取ることも慣れ、自分から話をすることも出来るようになりました。最初は、自然な笑顔だった私も、自然に笑えるようになりました。とても充実したホームステイを過ごすことが出来ました。

また、ボックスヒル病院を見学し、サルフォードパークで介護実習をしました。そこでは、浴衣

姿でコンサートをし、ハインドベル、日光和楽踊りや、フォークダンスなどを行いました。聴いてく

ださった皆さんが喜んでくれてとても嬉しかったです。

この研修で学んだことを今後の生活の中に生かしていきたいと思います。また、機会があれば、もう一度行きたいと思っています。

長谷川 章子

母校で勤務するようになつて、早三年が過ぎようとしています。思えば、私が在学当時の本校農業クラブ活動も、大変活発に行われていたことを思い出します。その良き伝統が後輩へと引き継がれてきたことは大変嬉しいことです。そこで、今年一年間の活動状況を振り返ってみたいと思います。

四月に行われた農業クラブ説明会では、入学したばかりの一年生二二四名を対象に、農業クラブの目的や活動内容をわかりやすく紹介しました。また、代表生徒による意見発表やプロジェクト発表を聴いてもらったり簡単な農業鑑定競技を行い、正解者には記念品をプレゼントして、より農業ク

ラブに興味・関心を持ってもらいました。校内意見発表会では、各クラスから代表一名が選ばれて、計九名の生徒が出場し、普段考えている自分の意見を七分の持ち時間で充分に発表しました。どの生徒の発表も大変すばらしく、しっかりとした発表内容でした。その結果、上野恵美さん(三年一組)、山形昌治さん(三年二組)、小池由恵さん(二年二組)が県大会への出場を決めました。

府中の森芸術劇場において行われた第五十二回関東地区学校農業クラブ連盟大会では、栃木県の代表として本校からプロジェクト発表二部門、意見発表一部門に出場しました。

その結果、プロジェクト発表C部門星野友花さん(三年一組)他十名が最優秀賞を受賞しました。プロジェクト発表A部門清水妙美さん(三年一組)他八名が優秀賞を受賞しました。意見発表A部門上野恵美さん(三年一組)が優秀賞を受賞しました。

千葉県で行われた第五十二回日本学校農業クラブ全国大会千葉大会は、約六千五百名の参加者により盛大に開催されました。出場する生徒は、夏休みもほとんど学校に来て練習しました。特に、

全国にはばたく農業クラブ!

農業クラブ顧問 野澤 裕治

木県学校農業クラブ連盟大会では、プロジェクト発表会、意見発表会が行われ、本校の代表生徒も日頃の練習の成果を十分に発揮しました。

その結果、プロジェクト発表A部門清水妙美さん(三年一組)他八名、プロジェクト発表C部門星野友花さん(三年一組)他十名、意見発表B部門山形昌治さん(三年二組)が最優秀賞を受賞しました。意見発表A部門上野恵美さん(三年一組)が優秀賞を受賞しました。

プロジェクト発表B部門床井祐介さん(三年一組)他七名、意見発表C部門小池由恵さん(二年二組)が優良賞を受賞しました。

校内農業鑑定競技会では、普段学んでいる専門知識について四十問の問題に挑戦しました。農業コースでは、実験器具や植物の病気、それに種子や植物体に関する問題が出題されました。農業機械コースでは、機械の部品や工具類、それに燃料や潤滑油について出題されました。食品科学コースでは、食品製造機器や原料、それに薬品について出題されました。大変難しい問題でしたが、農業コースでは上野恵美さん(三年一組)、農機コースでは山形昌治さん(三年二組)、食料コースでは水沼優一さん(三年三組)が全国大会の出場を決めました。

教育会館で行われた栃

【研修日程】

平成13年12月21日～平成14年1月6日(16泊17日間)

○機内(1泊)

○メルボルン(4泊)

・土井氏宅 英会話実習 ウェルカムパーティー
・パフフィンビリー蒸気機関車・ガーデニア貯水池
ワーロック牧場・フィリップ島(ペンギンパレード
見学)・クリスマスキャロル

○シェパトン果樹園・アボリジニーセンター見学

○デニラクイン(2泊)

・バンバーサ牧場 観光センター見学

○ホームステイ(7泊)

・州議事堂・ショッピングセンター等市内見学
・ボックスヒル病院での研修
・サルフォードパーク(老人施設)での研修・実習

○シドニー(2泊)

・ボンダイビーチ・ミセスマッコリーチュア
・オペラハウス・ハーバーブリッジ見学



また、ボックスヒル病院を見学し、サルフォードパークで介護実習をしました。そこでは、浴衣

姿でコンサートをし、ハインドベル、日光和楽踊りや、フォークダンスなどを行いました。聴いてく

ださった皆さんが喜んでくれてとても嬉しかったです。

この十七日間の長いようであつた、オーストラリアで得た多くの経験、多くの人々との出会いを私を大きく成長させてくれました。今回の研修の思い出をいつまでも大切にしたいと思っています。

また、ボックスヒル病院を見学し、サルフォードパークで介護実習をしました。そこでは、浴衣

姿でコンサートをし、ハインドベル、日光和楽踊りや、フォークダンスなどを行いました。聴いてく

ださった皆さんが喜んでくれてとても嬉しかったです。

プロジェクト発表は全国大会四連覇を目指して努力してきました。成績は以下のとおりです。

プロジェクト発表C部門星野友花さん(三年一組)他十三名、農業鑑定競技農業コース上野恵美さん(三年一組)、家畜審査競技上野翼さん(三年一組)が優秀賞を受賞しました。

十一月に収穫祭として、グラウンドにおいて全生徒、全職員、PTA役員の方々の参加をいただき、約八〇〇名による屋外炊飯(カレーライス作り)を行いました。天候にも恵まれて、感謝の気持ちを込めておいしく

食べました。一年間様々な活動をしてきましたが、生徒にとっては大変意味のある活動内容であったと思います。また、県大会におけるプロジェクト発表会の運営に当たっては、本校農業クラブ役員一人ひとりの努力があり、成功したのだと感謝しています。大会成績については必ずしも満足はいくものではないかもしれませんが、今後更に努力したいと思っています。

私は、十月二十三日から二十四日に千葉県で行われた第五十二回日本農業クラブ全国大会農業鑑定競技、農業コースに出場しました。この農業鑑定競技の部は農業・園芸・林業・造園・生活科学・農業機械・食品科学・畜産・農業土木のコースに分かれており、日頃の学習の成果を発揮するものです。

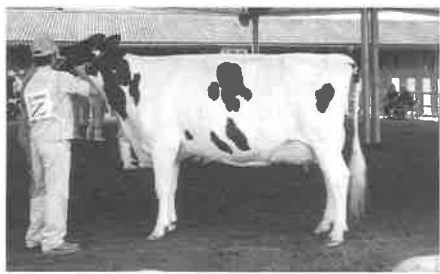
家畜審査競技に参加して

三年一組 上野 翼

私は、十月二十四日から二十五日に千葉県で行なわれた第五十二回日本学校農業クラブ全国大会の家畜審査競技に出場しました。この大会は、乳牛を審査する競技で乳牛全体に順位をつけるのと、各部位ごとに順位をつける生育中の牛の全体の順位をつける二つの問題が出る競技です。直接牛を触って確かめることもできます。

私は、昨年も全国大会に出場し、優秀賞をいただきましたが、今年こそは、最優秀賞を取れるように夏休みから勉強を始めました。そして、九月になり、土曜日、日曜日を、近くの酪農家や那須まで牛を見に行きました。那須拓陽高校の乃木農場へ行き、牛を見ながら良い所と悪い所を先

生にご指導いただきました。さらに、自分の家の牛舎で牛を見て、良い牛のイメージを作り、大会に参加しました。大会当日は、緊張せず審査することができました。結果は、昨年と同じ優秀賞をいただくことができませんでした。最後に、ご指導くださった先生方本当にありがとうございました。



農業鑑定競技に参加して

三年一組 上野 恵美

私は、十月二十三日から二十四日に千葉県で行なわれた第五十二回日本農業クラブ全国大会農業鑑定競技、農業コースに出場しました。この農業鑑定競技の部は農業・園芸・林業・造園・生活科学・農業機械・食品科学・畜産・農業土木のコースに分かれており、日頃の学習の成果を発揮するものです。



私は六月に行われた校内予選で一位になりましたが、その結果はともない良いものではありませんでした。しかも私は農業クラブ県大会の意見発表にも出場することになってしまったため、鑑定競技との準備がうまくできず、残念ながら県大会に出場する切符を手にすることはできませんでした。そこで私はその悔しさを全国大会農業鑑定競技に向けてのエネルギーとしました。

そして夏休みから本格的に勉強を始めました。暑さや自分自身の進路選択に悩みながら、図鑑や実物を集めたり、調べたりして学習を進めました。夏休みが明けてからも毎朝早く学校に行き勉強し、夜遅くまで農場に残り勉強しました。プロジェクトとは違い一人で闘わなくてはなりません。そこが自分自身の甘えとの闘いでした。大会の前日、祖母がお守りしてくれたのが心の支えとなりました。

プロジェクト発表に出場して

三年一組 星 野 友 花

「みんなで千葉に行こう」県大会で誓ったこの言葉が実現するとは夢にも思っていませんでした。私たち十二名は関東大会を勝ち抜いて、十月二十四・二十五日に千葉県で行われた、第五十二回日本学校農業クラブ全国大会に出場することができました。

千葉県に着いて、まずハーサルを行いました。野澤先生に計算の仕方を教えていただき、十二時頃に就寝しました。いよいよ大会当日を迎えました。受付で名札をいただき、会場に入りました。競技が始まると手が震えてしまいました。何とか全問解くことができた。結果は翌日に発表されるため、その日一日は落ち着きませんでした。しかし、翌日大会速報を見ると、自分の名前が載っていた驚きと喜びが込み上げてきました。先生と友達に「おめでとう」と言葉をかけてくれたことで自分がやってきたことが認められ、入賞できた実感を感じました。

今回、優秀賞を頂くことができたのは農業科の先生方のご協力、ご指導のおかげです。特に安江先生には毎日のようにご指導をいただいたおかげで入賞を果すことができました。応援して下さいました方々ありがとうございました。

家庭科の学習の中で大切なことは、授業を通して学んだこと知識や技術を身に着けて実践することです。身につけた力を愛情や奉仕の心を持ち、協力し家庭や地域社会の向上をめざすのが家庭クラブ活動です。それは身近な問題に気づくことから始まります。環境について学んだら、ごみの捨て方や資源の活用はこれではないのか。保育を学んだら赤ちゃんを抱いてみたい、子どもと遊んでみたい。食物を勉強したら季節の料理やお菓子を作ってみよう。など無限に出てきます。そんな時、役員会を開いて内容を検討したり計画を立て、家庭クラブ員の活発な活動につながるように、家庭科教員と連絡をとりながら行事を行います。今年度は県連家庭クラブの役員校でもあり少し忙しかつ

家庭クラブで得られたこと

三年六組 古 橋 恵 美

私は、一年生から三年生まで、家庭クラブ役員として活動してきました。しかし、一年生の時は家庭クラブの活動内容についての理解が浅く、先輩たちのやることを見て活動し、いつも迷惑ばかりかけていたように思います。二年生の時は副会長、三年生には会長として家庭クラブの仕事をしてきました。会長になってからは、急に責任ある活動が多くなり、戸惑いの中で、ただ一生懸命することしかできませんでした。

家庭クラブの主な活動には、アルミ缶の回収と回収したアルミ缶を売却して得た益金でハンドソープを購入し流しに設置すること、調理講習会、保育実習、体育館の花壇

の手入れ等があります。こうして家庭クラブの活動を振り返ってみると、私にとって良い経験させてもらったばかりでなく、勉強にもなりました。家庭クラブを通して、企画を立案し実行に移したり、話し合いにおいて話をまとめたり、良いアイデアを出し合ったりして、一つのことを実施するのは大変だということ、身をもって体験することができました。卒業後もこれらの経験を生かしていきたいと考えています。

最後に、迷ったり悩んだりした時に助けてくれた役員の方や先生方には心から感謝しますとともに、家庭クラブの益々の発展を期待しています。

平成十三年度 生徒会活動報告

顧問 森戸 滋

本年度で報告すべき生徒会活動は、何と云っても学校祭です。

今年の学校祭は、「二十一世紀大野原に夢のせて」のテーマのもと、十一月十日に開催されました。今回は二年に一度の一般公開となり、盛大に行われました。

これまでは一日だけの公開でしたが、今年は、前日の九日に、校内だけの発表を行いました。本番前の予行練習といった位置付けで、生徒・教職員とも真剣に取り組んだ結果、「一般公開に余裕を持って臨むことが出来た。次回もこのような日程でやってもらいたい。」と好評でした。

生徒会長を経験して

生徒会長

三年二組 山形 昌治

私は、高校に入學するまで、「生徒会」という華やかな役職に就いたことがありませんでした。姉がこ

の北陵高校の生徒会副会長をやっていた影響か、「生徒会の仕事をやってみよう」と思い、一年次に生徒会副会長に立候補しました。

当選できたときは、「やったー」と喜んで反面、「自分にできるのか？」と

いった不安やプレッシャーに押し潰されそうな気持ちになりました。二年次には生徒会長になり、卒業式の「送辞」という大役を任せ

ました。大勢の人の前で話をするなど、今までに経験したことがなかったもので、とても緊張しました。しかし、毎日の練習の結果、当日の「送辞」は自分の中では完璧な出来で、「生徒会長としてやっていけるか

降口から正面玄関に、もう一本は同じく生徒昇降口から体育館脇まで張り、ご来場の方々に歓迎の意を表しました。青空であれば気が付かれた方も多かったと思いますが、雨天のため、あまり目立たなかったかもしれません。

最後に、先に述べた通り、今年の学校祭はたくさんの方の来場者や、在校生・教職員とも、本当に感謝しております。次回も引き続き、多くのお客様が本校に足を運んでくださるよう、努力してまいります。

今後、在校生が力を十分に発揮でき、同窓会の皆様の今までの通りのお力添えをお願いいたします。そして、後輩たちへの愛情のこもった指導・ご鞭撻も合わせてお願いいたします。

景品も五十個と多かった。最後、在校生が力を十分に発揮でき、同窓会の皆様の今までの通りのお力添えをお願いいたします。そして、後輩たちへの愛情のこもった指導・ご鞭撻も合わせてお願いいたします。

母校の部活動は今？

野球部一年間の歩み

二年一組

阿久津 徹

我々野球部は、押久保部長、鈴木監督、仙波コーチの御指導のもと、高校球児の聖地、甲子園を目指し、毎日練習に取り組んでいます。

今年度は、引退した三年生九名、二年生七名、一年生十三名の二十九名の大会予選では二回戦で敗れ、三回戦の宇都宮東高校と対戦し、接戦でしたが二一三の僅差で敗れてしまいました。

今年度の主な試合結果は、芳賀六校大会準優勝、夏の全国大会予選では二回戦で敗れ、三回戦の宇都宮東高校と対戦し、接戦でしたが二一三の僅差で敗れてしまいました。

今年度の主な試合結果は、芳賀六校大会準優勝、夏の全国大会予選では二回戦で敗れ、三回戦の宇都宮東高校と対戦し、接戦でしたが二一三の僅差で敗れてしまいました。

茶道部員の一年間

三年六組

斉藤 ちづる

私達茶道部にとって、今年度は「チャンス」と「チャレンジ」の年でした。

それは、栃木県高等学校文化連盟茶道部会中部地区交流会で、お点前を披露したことが始まりでした。その大会は、栃木県内の高等学校が、年に一度集まり交流を深めることを目的とする茶会です。今回は、本校が担当校となりました。立



野球部一年間の歩み

で新チームを作っていくことになりました。今まで色々と指導を受けた甲子園の聖地、甲子園を目指し、毎日練習に取り組んでいます。今年度は、引退した三年生九名、二年生七名、一年生十三名の二十九名の大会予選では二回戦で敗れ、三回戦の宇都宮東高校と対戦し、接戦でしたが二一三の僅差で敗れてしまいました。

今年度の主な試合結果は、芳賀六校大会準優勝、夏の全国大会予選では二回戦で敗れ、三回戦の宇都宮東高校と対戦し、接戦でしたが二一三の僅差で敗れてしまいました。

今年度の主な試合結果は、芳賀六校大会準優勝、夏の全国大会予選では二回戦で敗れ、三回戦の宇都宮東高校と対戦し、接戦でしたが二一三の僅差で敗れてしまいました。

礼席だったので、御園柵を準備し、お点前を行うことになりました。部員全員、このような大きな大会で、大勢のお客様をお迎えするのは初めてのことでした。最初は、何年か一度あるかないかという偶然に、とても驚きを隠すことができませんでした。しかし、その偶然を、自分達を大きくする「チャンス」に変え、「チャレンジ」をした茶

道部員は、とても素晴らしい経験でした。また、二年に一度の学校祭公開の年でもあり、お点前を披露しました。学校祭でも、御園柵でのお点前を披露しました。一つ一つの動作を、自分達のものにしていくために、部員一人ひとりが協力し合い、練習に励みました。茶券やポスターも、一枚ずつ心を込めて書きました。



茶道部員の一年間

ライフル射撃部 栃木県高校スポーツ賞を受賞！

二月十五日、ライフル射撃部は栃木県高校スポーツ賞を受賞しました。この県スポーツ賞は、一九九九年に県運動記者クラブと県高体連が主催し、各年度ごとに、全国高校総体で優勝し、本県高校スポーツの振興に最も貢献したと認められる団体や個人に贈られるものです。

射撃部は、昨夏の全国高校総体のチームライフル女子団体（柳選手、佐藤選手、山田選手）で初優勝し、全日本ジュニアチームライフル射撃大会、関東高校ライフル射撃大会でも、大会新記録で優勝を果たすなどの活躍が高く評価され、今回の受賞となりました。

また、男子部員諸君も女子部員諸君に負けず劣らず健闘して、ジュニアチームライフル射撃大会では、男子団体（佐藤選手、榎田選手、柳選手）が三位入賞するなどの成績を残すことができました。

引き続き射撃部の部員諸君は、さらに練習を重ね、真岡北陵高校の名を全国に知らしめるものと確信しております。そして、今後の射撃部の部員諸君のさらなる活躍を祈念しております。



ライフル射撃部 栃木県高校スポーツ賞を受賞！

訃報

前市羽支部長飯田誠一氏におかれましては、平成十三年九月十八日に六十六歳で逝去されました。

飯田氏は、長年にわたる市羽支部長として支部をまとめ、創立九十周年記念式典におきましては式典の運営にご尽力いただきました。

ここにこれまでのご功績とご尽力に感謝と敬意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

新世紀二〇〇一年は、国内外共に、歴史に残る大きな出来事が発生した年となりました。さらに経済不況の風が吹き荒れて、失業者が続出する有様です。今までの良過ぎたのでしょうか？私達はもう一度原点に帰って、足元から見直すことが必要な時なのかも知れません。

同窓生の皆様方の一段のご努力を望むところで、会報誌へのご協力、心から感謝申し上げます。



編集後記